

西宮 えびす

平成21年
夏号



えびす

萬燈籠

七月二十日

諸国探訪 桐町西宮戎神社

西宮まつり産宮参り復興

浅野温子さん 日本神話への誘い

えびす 平成21年夏号

西宮えびす 平成21年夏号(通巻第31号) 平成21年6月1日 発行
発行 西宮神社 TEL:0798-233311 FAX:0798-233311
〒462-0914 兵庫県西宮市社家町1-17 電話0798-233311 FAX:0798-233311

編集 文化課広報 印刷 小西印刷所

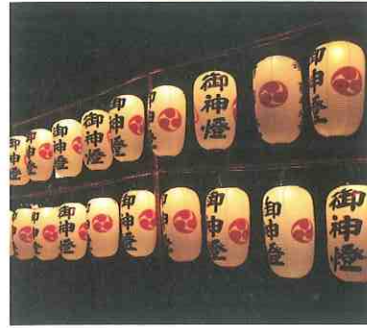
子供相撲大会参加者募集



平成十八年より沖惠美酒神社祭(七月十日)に合わせて直前の日曜日(本年は七月五日)にお子様やかな成長を願う子供相撲大会を奉納いたしております。三歳(幼稚園保育園相当)から小学六年生のお子様まで、男女問わず募集いたしておりますので、ご家族そろっての参加をお待ちいたしております。

【競技方法】年齢別に分かれてのトーナメント戦
【競技日時】平成二十一年七月五日(日)
※競技開始時間は部門ごとに異なります。
【参加資格】幼稚園保育園児と小学一・二年の男女未経験者 小学三年・六年生までの男子経験者
【応募方法】社務所受付にて応募用紙を用意しています。

夏祭提灯奉納のご案内



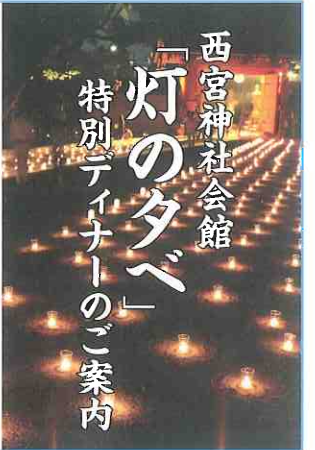
古来神社ではご神前に提灯を奉納し、更なるご神助を祈願する風習がございます。当西宮神社では毎年七月二十日の夏祭・方灯籠祭に併せて、ご奉納頂いた提灯を参道沿いに設けご神慮をお慰め申し上げております。提灯をご奉納頂き、大神様のご神徳をお受けになれますようご案内申し上げます。

【献灯料】三千元(提灯にご芳名とお住いの町名をお入れいたします)
【締切】平成二十一年七月十日(金)

各ご案内へのお申し込み、お問い合わせは西宮神社社務所 TEL:0798-233311 各担当係までお願いいたします。

西宮神社社会館

「灯の夕べ」 特別ディナーのご案内



酷暑の夜を涼しげに彩る「えびす萬燈籠」。西宮神社社会館では神事とともにお楽しみ頂ける特別ディナーをご用意いたしました。ぜひ、賞味下さい。

【日時】平成二十一年七月二十日(祝)
午後六時三十分(受付午後六時)

【萬燈籠特別メニューおしながき】

- ・季節の取煮
- ・お造り
- ・サラダしたて
- ・夏野菜の冷たい
- ・焼き合わせ
- ・天婦羅
- ・季節のごはん
- ・冷やしそうめん
- お一人様
- 税込五〇〇〇円
(限定六〇名様)

【締切】七月十日(金)まで先着順受付

【問合せ先】西宮神社社会館

TEL:0798-233311

編集室から

●天皇皇后両陛下におかせられました今年四月十日、ご成婚五十周年の嘉節をお迎えにされました。職員一同お慶び申し上げます。同時に、両陛下の益々のご万歳をご祈念申し上げます。当社におきましても同日ご本殿にて奉祝祭をご奉仕いたしました事を報告申し上げます。

●今ご成婚当時の昭和三十四年を振り返れば、当社は戦災復興の最中でありました。昭和二十年の本殿焼失から十四年。新社殿の設計が成り、造営用材の搬入がいよいよ始まるうとしている時でありました。

●その二年後の昭和三十六年にめでたく本殿復興を迎え、そして来たる平成二十三年に復興五十年を迎えます。当社では現在五十周年に向けて奉祝行事を計画いたしております。



昭和36年当時の遷御の様子

桐町 西宮戎神社

〔鎮座地〕山形県米沢市 白根澤 孝毅氏



桐町西宮戎神社は米沢市桐町町内のちょうど中心部に位置し、桐町戎講社が中心になり桐町町内会・桐町商店会・桐町協和会（青年会）等で御守りし、昭和二十

八年に建立しましたので五十年以上に成りました。

桐町西宮戎神社の御祭り行事は年間で見ますと、①一月一日の元旦祭、②七月十日の夏祭（夏祭りは協和会が主体となり、大掛かりなビヤーパーティ・本格的なサンパレード等を行ない、今では一町内の祭で無く市の北部地区の夏祭りとなっており）、③十月二十日は秋の大祭（本格的な神社の祭）、④そして毎月十日は月例祭（戎神社の役員のみ）の祭り行



事が行なわれます。

また平成十五年十一月には桐町西宮戎神社遷座五十周年記念として、桐町町内議員の方より立派な石の戎像を寄贈して頂きました。



大石像の戎様

一般的な戎様の立姿像（右手に釣り竿、左手に鯛）で大きさは3.5mの立派な石像で有り、西宮戎神社境内の大鳥居の左側の場所に鎮座しております。
大石像の戎様は今後も桐町西宮戎神社のシンボルとして桐町町内は元より米沢市民を見守って下さると信じております。

諸国探訪 十三

新講社のご案内

当社には様々な講社があり、篤い崇敬を受けております。

ここでは末社講社、神輿奉賛講社、開門神事講社の三つの講社をご紹介します。各講社へのお問合せは、当社内の各講事務局へお申し出下さい。

○末社講社



末社とは本社が管理している本社とゆかりのあるお社で西宮神社には境内境外合わせて十二社の末社がお祀りされております。平成十九年より本社が古例に従い古式神饌を復興した事に続き末社でもこの古式神饌をお供えしており、本年度より各末社の祭典により多くの方々にご参列頂きご神徳を受けていただくとうと当講社を設立いたしました。就きましては各末社にご神縁を結ぶ場となりますよう、当講へのご入講をお誘い申し上げます。

【講金】年間三千元
【入講特典】各末社祭のご案内をお送りします。
毎年五月四日の日供講社々々神楽祭のご案内をお送りいたします。
特製のぬい・参拝帳を進呈いたします。
すべての末社祭にご参列いただいた方には記念品を贈呈いたします。
（年限はございません）



平成21年4月2日末社 松尾神社祭齋行

○神輿奉賛講社



神輿奉賛講社はみこしを担ぎ地域のお祭りに参加することで、地域の青少年の育成、交流を図り設立された講社です。当講の活動としては西宮まつりでのみこし担ぎを始め、その他の祭典、行事に関しても幅広く参加して頂いております。また本みこしに加えて平成十八年に復興したふとん太鼓台も参加しており、こちらにはお子様がたく太鼓をのせております。ご家族揃って地域のお祭に参加してみませんか。多くのご入講をお待ち申し上げます。

【講金】正講員（高校生以上）年間講金千円、講社寄付金千円
子供講員（中学生以下）無料
※子供講員は保護者が正講員として入講することを条件とします。
※講社寄付金は家族千円とします。



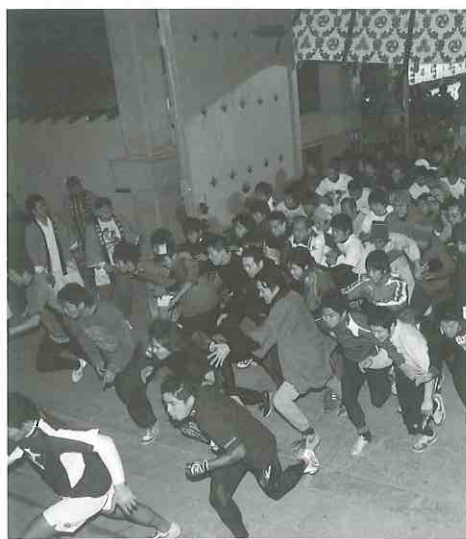
ふとん太鼓台を担ぐ中学生達

○開門神事講社



一月十日の午前六時、「かいもん!!」の発声と共に開かれた表大門（赤門）から外で待ち構えた参拝者が約三百メートル離れた本殿へ一番福を競い走り出します。

当講はこの西宮神社開門神事を安全に執り行う為に有志を集い設立された講社です。この西宮神社の開門神事がこれからも代々受け継がれていきますように多くのご入講お待ちしております。【講金】年間千円



1月10日 午前6時開門神事スタートの瞬間

西宮まつり

平成二十二年九月二十二日(祝)〜二十三日(祝)

西宮まつり復興から無事第十回目を迎えることが出来ました。昨年までは氏子四地区交代でお旅所を設け神事を行なつて参りましたが、本年は十周年を記念に、渡御船団揃つての産宮参りの復興を計画しています。

西宮まつりスケジュール

●九月十九日(土)
午後六時三十分

浅野温子語り舞台

「日本神話への誘い」(要予約)

●九月二十一日(祝・敬老の日)

午後五時

宵宮祭

西宮まつりの開催を奉告し、お祭り三日間の安全無事を祈願します。

午後六時

奉納演芸会

地元の方々やゲストを招いて各種演芸を奉納するほか、様々な景品があたる神前くじを行ないます。

●九月二十二日(祝)

午前十時

例祭

当社で最も重要な祭典で、全国から崇敬者の参拝があります。

午後三時

稚児行列

時代装束に身を包んだかわいらしいお稚児さん約二百人が商店街を行進します。

午後五時三十分

こども樽みこし

三十基を超える子供会のみこしプラバン。男女みこしが、にぎにぎしく商店街を練り歩きます。

●九月二十三日(祝・秋分の日)

午前九時

渡御祭

渡御祭の始まりをえびす様に奉告し、ご本殿からお神輿へご神体をお遷しします。続いて新西宮ヨットハーバーから和田岬へ出発。

途中航海中の安全を祈願してかざまつりの神事を行ない、和田岬の和田三石神社を参拝いたします。

この他、三日間を通じて氏子青年会「若戎会」のだんじりが市中を巡行いたします。

※各行事の際は予定で社務部合・天候等で変更となる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

渡御祭 復興のあゆみ

【西宮殿年中御神事】によると、元亀二年(西暦一五七二年)八月二十二日に恒例の「大輪田御神事 現在の産宮参り」が行なわれたと見えており、のもの社領没収が織田信長の没した天正十年(西暦一五八二年)より以前であると考えられる事から、神事の中絶はこの十一年の間にあったであろうと推測されます。これ以後、約四百年の時を経て復興した渡御祭の歩みをまとめました。

明治時代	新暦への移行に伴い、例祭日が八月二十日から九月二十日に変更。
昭和二十九年	本殿遷座準備のため三年間中止(三十七年まで)。
昭和三十三年	震災のため五年間中止(三十八年まで)。
昭和三十三年	西宮まつり協議会発足。例祭翌日の二十三日に船渡御を復興以後の例となる。
昭和三十三年	西宮浜を周航する本隊と、産宮参りへ向かう分隊に分かれて渡御。
昭和三十三年	氏子四地区にお旅所を設け、お旅所祭を斎行。本年より地元小学生による童女神楽を始め、また大阪天神祭の人形講船が渡御に参加。
昭和三十三年	蒲田神輿が行列に供奉。
昭和三十三年	淡路人形舞舞組(淡路人形浄瑠璃船が渡御に参加。船上にてえびす舞を奉仕。
昭和三十三年	全船団が和田岬へ進行予定。



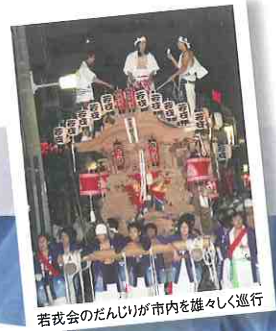
古記録に見る和田岬お旅所の様子



古儀にのっとりかざまつりを斎行



香櫛園地区から選ばれた小学生による童女神楽



若戎会のだんじりが市内を雄々しく巡行



約200人のかわいいお稚児さん

浅野温子さん、西宮神社境内で語り舞台上演決定

九月十九日(土)、西宮まつり再興十周年を記念し、女優の浅野温子さんをお招きして、語り舞台「日本神話への誘い」を境内にて上演致します。

※お申し込みは別掲(要予約)



ちびっ子達も特殊神輿「蒲団みこし」を元気に練り廻します



昨年地域から30基を超える子どもみこしが参加しました



ギャルみこし

産宮参りとは?

西宮は古くから、鳴尾(西宮市鳴尾町)の村の漁師が、武庫の海(現在の大阪湾)で漁をしていたところ網にこの神像を得ました。しかし漁師は魚ではなかったためこの神像をそのまま海に戻すことにします。その後、漁師は舟を和田岬(神戸市兵庫区)の沖に漕ぎ出し、再び漁を始めたところ、さきほど武庫の海に戻したはずのこの神像がまた網にかかったではありませんか。これは不思議な事だと思い、漁師は「神像を家に持ち帰り、丁寧に祀りすることにしました。」

幾日か過ぎたある夜、漁師の夢に神像が現れ、「我はえびす大神である。ここより西の方へよい土地があるので我を案内いたせ」とのお告げを下されました。

漁師はさっそく村人を集めて、えびす様をお神輿に乗せ西に向けて出発しました。途中お神輿を助めて休憩をとりましたが、えびす様はそのまま居眠りをされてしまい、なかなかお目覚めになれません。ここでできないと、困った漁師は恐れ多くもえびす様のお尻をつねつてお起こし、ようやく今の西宮神社の鎮座する地にとり着きました。

この伝承がいつ頃から伝わったのかは不明ですが、平安時代の末には和田岬へ神輿をお渡りする神事が行なわれていた事が見えており、平安期の公家中山忠親の日記「山槐記」や鎌倉期の僧一遍上人の事跡を描いた二遍上人聖絵から祭りの様子を窺う事ができます。

のちの戦国期動乱の中、織田信長の社領没収により中断を余儀なくされましたが、約四百年後の平成十二年に復興。そして今年第十回目を迎えました。



童ざいに及ぶ神輿



船上でえびす舞を奉納

えびす瓦版

時の西宮神社用日誌を
ひもとく「えびす瓦版」
今号は
享保六年（一七二一）です。



神主 吉井宮内良信
社家 東向左膳 大森太郎左衛門 祝部 大森次郎兵衛
田村伊左衛門 祝部 廣瀬丈右衛門
堀江忠兵衛 願人 辻重左衛門

関東・奥州筋の人別改めを行う

昨十二月十一日に西宮を出立した神主行は、大坂御奉行所、京都御伝奏家に御届の上、同月廿六日に江戸へ下着。正月六日、公方様への御年礼を独礼座にて滞りなく済ませた。しかしながら本年はもう一つ重大な社務を行わなければならなかった。

下野国黒羽に居住の西宮神社諸国触頭山木勘解由は、手代を使い御神像札を賦与する西宮本社配下から役銭を取集め、江戸へ出府する本社社役人へ社納していたが、近年これが度々滞ってきたので触頭役を放棄した。これによって関東筋の組頭は公方様への年頭御礼に出府中の本社神主吉井宮内に面談し当年役銭を社納することとした。また奥州・信州筋は、遠国につき常陸玉造の蛭児社社人

開帳願を大坂御奉行所へ

西宮社は寛文年中に御造営され、その後は御修理ないので衰微、殊の外破損に及んでいる。これによって形像又宝物を五十日に限り開帳することとし、十一月五日に同奉行所に願書を差上げた。官位の御儀については御伝奏にお願いするが、古くから修覆などは大坂御奉行所をお願いし、その上で御伝奏に御届することである。来年三月朔日より四月廿一日の間に開帳することとなり、早速社中表大門前を始め明石・姫路・室・淡路・伊丹・池田・有馬等へ札を建てに遣わせる。

鳥害あれこれ

名次社の上にかかる松の木二本に鳥がとまり糞をして御社にかかるので伐らせる（五月三日）
また本社の屋根に鳩が集まり、屋根が傷み修繕もしいたので、御社の後に一間に三尺ばかり丸木を四本建て、鳩がとまる所を設け置く。

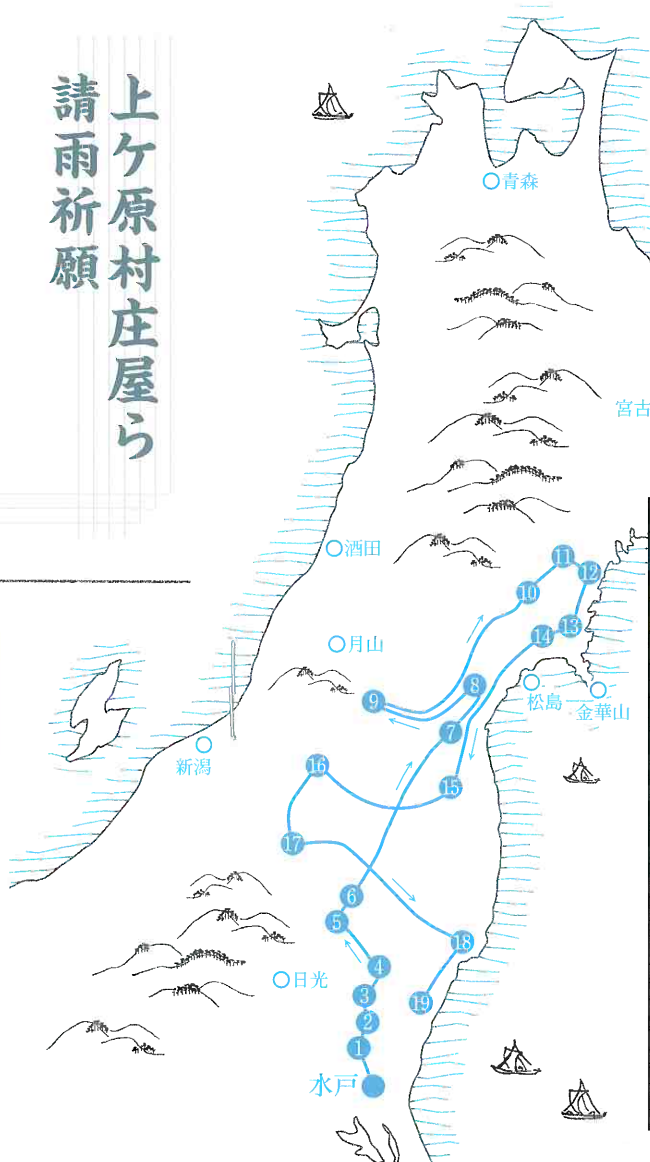
須藤但馬が巡国し、各地の組頭・組下の人別改めと役銭取集めを行った。今後は各地の組頭が役銭を集め江戸・小網町の西宮五郎右衛門方まで、目録を添えて飛脚にて三月末までに渡すこと、西宮本社より江戸

下向年には二月十日までに組頭が江戸へ持参することを伝えた。

但馬の足跡は次の通り
六月九日～七月十日

下野・常陸・下総方面
閏七月七日～十月十九日
常陸・奥羽州

須藤但馬の巡国経路



◎巡国経路一覧 人別改(人)

日	場所	人数
1	閏7月7日 水戸出立野口村	2
2	" 9日 高部村	1
3	" 11日 大子村	1
4	" 12日 東館村	14
5	" 13日 白河愛宕町	27
6	" 20日 三城目村	31
7	" 25日 岩沼町	11
8	" 26日 里符町・吉岡町	12
9	8月 3日 山形六日町	20
10	" 17日 金沢町	16
11	" 22日 大原町	8
12	" 26日 気仙沼町	3
13	" 28日 志津川町	4
14	9月 1日 横川町・湧谷町	16
15	" 22日 丸森町	7
16	10月 1日 (出羽)川井村	14
17	" 9日 会津河原町	3
18	" 16日 (岩城)平町	11
19	" 19日 (常陸)中妻村	10

上ヶ原村庄屋ら 請雨祈願

炎干甚だしく同村庄屋年寄が神主方へ相談に来る。五月二十八日より上ヶ原宮に「龍明珠」を上げ、社家祝部により御祈禱を執行する。六月一日晩方に御祈禱のおかげをもって降雨がある。御礼に神酒并銀三十五匁を持参する。

これは偏に村中の信心浅からず、神慮の冥助があつたのである。翌二日も雨が降り、大雨水満足となった。

津門山手米割を行う

社家郷の山への立入り料である「山手米」が毎年津門村から納められている。

今年も十一月に津門村庄屋から米五斗が社納され、同廿八日に神主宮内へ壺斗二升、社家祝部中へ各四升六合づつを割り当てる。高木村からは山手銭として二百文が納められる。

絵像の件、浅草寺に申し入れる

三月十九日、江戸へ出府中の祝部廣瀬丈右衛門と社役人辻重左衛門の二人は浅草寺別当方へ行き、代官分の菊地惣左衛門宅を訪れ面談した。これは数年前より当寺内の恵美酒社にて十二月十七日十八日に夷像を売っているが、この像は西宮本社より支配を受けている者が配るものである。このことは公儀より仰せ付けられたことで、公儀御定法書は神主方が頂戴している。大坂今宮の夷社は当寺の恵美酒社よりも大きい社で、同様に絵像を出していたが御奉行所へ届けたので御停止となった。別当はこの趣をご存知ないと思われるので、夷像を出すことはご無用になるようにと断りを申した。これを聞き惣右衛門はこの旨を詳細に申し伝えると回答した。

この結果二百五十二人の人別改めを行ったが、内八十四人は退転、残り百六十八人(常陸下野下総三十五人、奥羽州岩城百三十三人)となる。



涼火の彩り

「えびす万灯籠祭」

平成二十一年七月二十日(祝)

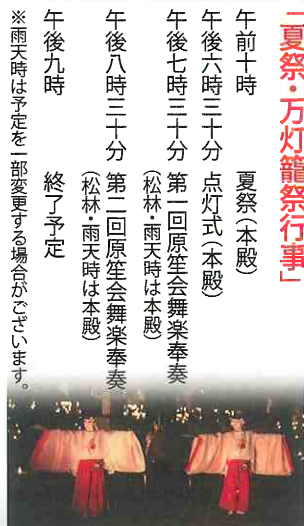
昔より夏は疫病の流行りやすい季節として暑氣払い・病魔祓いの神事が各地で行なわれておりました。当社の「大祓式」「夏祭」「えびす万灯籠祭」もその一つ。いずれの祭典も、心身の厄をお祓いし、えびす様をお慰めして、参拝者の方が清々しくお過ごしになれるようご祈願申し上げております。特にえびす万灯籠祭は毎年大勢の方が涼を求めてお参りになられます。どうぞ皆様お誘い合せの上で参拝下さい。

「えびす風鈴・えびすうちわを特別授与」

例年ご好評を頂いております特製うちわを本年も授与致しますとともに、昨年より始めましたえびす風鈴も引き続き境内特設風鈴棚にて授与いたします。

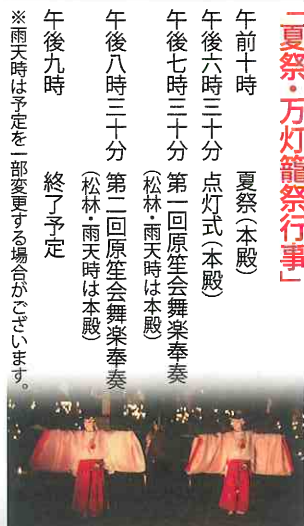
「夏祭・万灯籠祭り」

- 午前十時 夏祭(本殿)
- 午後六時三十分 点灯式(本殿)
- 午後七時三十分 第一回原笙会舞楽奉奏(松林・雨天時は本殿)
- 午後八時三十分 第二回原笙会舞楽奉奏(松林・雨天時は本殿)
- 午後九時 終了予定



松林にて女人舞楽原笙会が舞楽奉奏

ライトアップで明るく浮かぶ赤門



松林にて女人舞楽原笙会が舞楽奉奏

裏表紙に万灯籠祭関連「万灯籠祭特別デザイナー席」提灯奉納のお願い」を掲載しています。あわせてご覧ください。

浅野温子さん語り舞台 「日本神話への誘い」公演決定

西宮まつり船渡御復興十周年記念の神賑行事として、この度、女優浅野温子さんをお招きし、境内特設会場にて語り舞台「日本神話への誘い」を上演いたします。浅野さんは日本の伝統文化・神話が忘れ去られようとしている世相を憂い、平成十五年から日本各地の神社で『古事記』の語り舞台を上演されております。

●浅野温子プロフィール
昭和三十六年四月生まれ。東京出身。高校在学中の昭和五十二年に女優デビュー。ドラマや舞台上で活躍される一方、平成十五年から伊勢神宮・出雲大社を皮切りに全国各地の神社で語り舞台「日本神話への誘い」を公演中。



【日時】平成二十一年九月十九日(土)午後七時開場
午後六時三十分開演

【会場】西宮神社境内特設舞台

【鑑賞料】大人前売券1,500円・当日券2,000円
子供500円

※前売り券が完売した場合は当日券の販売は致しません。

【定員】1,000名(全席自由)

※定員次第×切とさせて頂きます

【お申込み】西宮神社語り舞台係
TEL 0798-33-0321

今宵、えびすの森に神々が舞い降りる

西宮まつり船渡御復興十周年記念

神話への誘い

http://www.katanbuta-nihonshinwa.com

浅野温子語り舞台
『日本神話への誘い』
平成21年 9月19日(土)
開場/18:00 開演/18:30

※雨天決行
雨天時は境内特設会場にて上演いたします。

語り/浅野温子
会場/西宮神社境内特設舞台
鑑賞料/大人:前売券1,500円・当日券2,000円
小人:500円(中学生以下)
※前売券は9月10日(土)まで受付完了となります。当日券は当日受付となります。

座席料/1,000円(自由席)

主催/西宮まつり協議会
後援/西宮市・西宮東地区協議会・西宮西地区協議会・西宮南地区協議会・西宮文化振興財団
お申込み/西宮神社 語り舞台係
TEL 0798-33-0321 FAX 0798-33-0355



えびすトピック

JR観光キャンペーン 六英堂特別公開

JRグループが自治体・観光施設と連携して兵庫県をPRする大型観光キャンペーン「あいたい兵庫デスティネーションキャンペーン」。平成二十二年四月より県下の観光施設・文化施設等で様々なイベントが開催されております。



当西宮神社においても明治の功臣として知られる岩倉具視公の旧私邸「六英堂」を特

別に公開いたしますとともに、室内にて全国のえびす像の展示を行っております。

公開期間は四〜六月の土・日・祝日（午前九時〜午後四時）となっておりますので、この機会に是非おこし下さい。

※得チケットをお持ちの方は記念品の招福宝船を授与致します。
※期間中の土曜日はJR西宮駅から無料巡回バスが発着します。

三田分社遷座祭奉仕

四月二十五日に三田市商工会がお祀りしていた「回りえびす」と称されるご神像を当社分社の分霊社である西宮神社三田分社へ併せ祀る遷座、合祀祭が執り行われました。この「回りえびす」は年に二度「誓文払い」の時に旧三田町の十町が持ち回りで街頭にお祀りしていたもので、祭典費用がかさむなどの理由で昭和四十八年に中止、以後は三田市商工会で保管されていきました。午後七時半、三田市商工会を出たえびす様は午後八時頃三田分社に着きました。厳粛の内に祭典も滞りなく執り行われ、えびす様は無事三田分社へと遷座、合祀されました。

阪神なんば線開通

阪神なんば線が三月二十日に開通しました。阪神なんば線開通に伴い、阪神電車は近鉄電車との直通運転をスタートします。これにより阪神三宮から近鉄奈良の区間での乗換えなしの直通移動が可能になりました。阪神なんば線を利用して、よりいっそう多くの方々のご参拝をお待ち申し上げます。

西広場整備



当社の本殿西側に位置する広場は十日えびすの際には吉兆の店が立ち並び、多くの参拝者の方々に賑わっております。しかしこの広場は、以前から雨が降ると地面がぬかるみ、参拝者の方々に迷惑をおかけしてまいりました。そこで昨年十二月ぬかるみ防止の為に一部に砂利をひき舗装しました。これにより参拝者の方々が、気持ち良く参拝して頂けることを願っております。

海外交流 ワルシャワ大学から感謝状



近年の諸外国の日本に対する関心の高さは目を見張るものがあります。去る平成二十年十月、ポーランドのワルシャワ大学が秋祭にて「源氏物語の千年紀」と題するフェスティバルを開催。これに先立ち同国名誉総領事からの依頼を受け、「小桂」を貸出しました。小桂とは平安時代の代表的な女房装束で源氏物語が作られた頃の高級婦人の準正服でした。イベント当日は学生をモデルに小桂の着付けの実演の他、学術講演・源氏物語の映画上演などが行なわれ、後日同大学日本学科より感謝状を頂きました。

感謝状



えびす & A

Q 神主さんは普段どんな仕事をしているのですか？

A それでは私たち神主の一日を、追ってみたく思います。朝、当直の神主により清められた本殿にお供え物をして、宮司が皇室のご繁栄と、国民の安泰とを祝詞にて奏上します。朝のお祭りを終えると、職員全員で参拝者の方々に心地よく参拝して頂けるように境内を清掃します。

Q そして一日の奉仕を終えたらまたご神前にて宮司が、二日何事も無く過ごされたことを神様に感謝し一日を終えます。このように私たちは日々国民の幸福を神様にお祈りしご奉仕しております。

Q 国道四十三号線沿いの門の屋根には鯛がいたるとの話を聞いた事がありますが本当ですか？

A はい、本当です。昔、海岸線は今よりもっと北の方であり、門のすぐ前までは海でした。それ

南門上の鯛



で、門の上にはえびす様も抱いておられる鯛が彫られたのではないのでしょうか。因みに門の上には鯛以外に桃も彫られており、桃は魔除けとして知られております。

Q 一月末に、お参りに行きましたら、賽銭箱の前に「豆受け」なるものを見受けました。これはどういったものですか？

A 節分の行事として豆まきをするのは有名ですが、西宮では豆まきはせずにかわりに半紙に名前や年齢、願い事を書いてお賽銭と共に豆を奉納するという風習があります。豆まきは邪気を祓うとして行われておりますが、それに対し豆を

拝殿前の豆受け

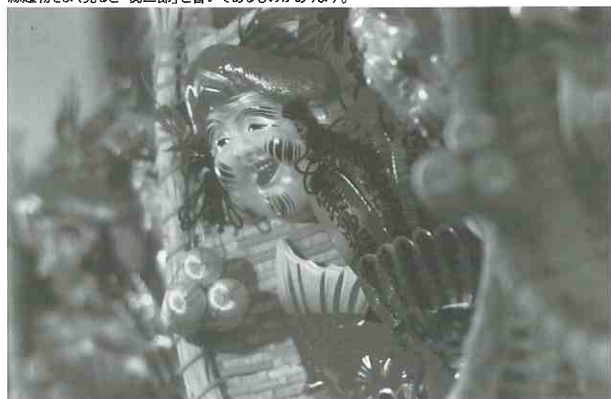


奉納するということはいくつかは神様への報告の意味ではないかと言われております。

Q 十日えびすで縁起物の熊手を買いましたが、中の飾りも「戎」が苗字で「三郎」が名前なのですか？

A 日本の神話を記した『日本書紀』には、えびす様＝蛭子（ひるこ）がイザナギ神・イザナミ神の三番目のお子様として生まれた事が見えており、この事からえびす様を「戎三郎（三番目の子の意）」と呼び習わす風習があります。しかしながら当社最古の記録『伊呂波字類抄』には昔境内に「夷（えびす）」と「三郎殿（さぶろ

縁起物をよく見ると「戎三郎」と書いてあるものがあります。



うどの」という二つのお社があった事が見えております。この事から本来は別々の神様であったのが、後の世にあたかも「戎三郎」という一柱の神様のよう信仰されるに至ったのだと考えられます。苗字や名前というものではありません。

当コーナーでは、引き続き皆様のご質問をお待ちしております。えびす様にまつわるご質問から神社一般のご質問まで、どんなご用件でも結構です。
◎ご質問は郵便・もしくはFAXにて、
〒662-0974 兵庫県西宮市家町一十七 西宮神社文化課 広報係
(FAX) 0798-333-5355)までお願い致します。